

平成 17 年 8 月 7 日

武庫川流域委員会

委員長 松本 誠様

武庫川流域委員会

委員 伊藤益義

## 基本高水の選定について（意見）

平素は武庫川流域委員会を精力的に運営いただきましてありがとうございます。

ご照会頂きました主題の件に関し下記の通り意見を申し述べますので、よろしくお取り計らいください。

## 記

## 1. 基本高水選定についての意見

基本高水とは流域に降った計画規模（1/100）の降雨時の河川流量のハイドログラフで表される。

基本高水の選定には 1/100 降雨の選定が必要であるが、この場合**できる限り多くの過去にあった洪水に抽出検討を加え、この中から異常分を棄却して、対象降雨を選定する。**

したがってこれまでの議論中では表 2「降雨倍率 3.0 倍以下のピーク流量一覧」の降雨が望ましい。但し棄却基準については検討が必要と考える。

## 2. 棄却基準

同表 2 の洪水を選定した後、棄却基準を適用して異常降雨を棄却する。

## 地域分布による棄却

上流、下流の 1/400 確率の雨量とあるが 1/500 から変更された理由は何か、確認したい。

（H11 年降雨以降分を含めたと説明があったがこれと数値の関係が理解できない）

上流、下流で確率雨量が異なっているのはなぜか。

（第 8 回委員会では上流、下流の区分は道場から北、道場から南と区分されていたが、この区分によれば下流に有馬川、船坂川も含まれるため果たして妥当なのか）

## 時間分布による棄却

単純に一雨降雨時間だけで判断してよいのか

H16 年 10 月降雨は時間分布によって棄却されるが対象降雨前降雨の影響をどう見るのか

## 観測地点の差による棄却

観測地点の差によるシミュレーションではピーク流量の誤差は少ないが、ハイトグラフでは誤差が大きく、「基本高水はハイドログラフ」という点から言うと棄却が妥当ではないか。

## 引き伸ばし倍率による棄却

引き伸ばし倍率はこれまでの流出解析の手順（河川砂防技術基準および中小河川計画の手引に準拠）から見て国交省の基準に合わせて 2 倍として処理することが妥当である。

## 対象降雨の選定に当たって

対象降雨の選定に当たって上記棄却基準からの妥当性の検討を行うことが必要と考える。

以上